



園だより ～きづき～

キ3園 第73号

2025年11月号

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

季節がいっきにすすみ過ごししやすい秋がやってきました。あの暑かった日々が嘘のようです。自然遊びを楽しむ機会が多い季節、散歩や公園へでかけて秋から冬への変化を感じて行きたいと思います。

今月は、「運動会ごっこ」の参加があります。ご協力よろしくお願い致します。



11月行事予定

- 10日(土) 身体計測
- 12日(水) 歯科検診
- 15日(土) 運動会ごっこ
- 20日(木) 健康診断
- 25日(火) 合同避難訓練

お弁当日は **11月29日(土)**です

お知らせ・お願い」



- ・肌寒い日は、上着を用意して適時調節しましょう。
- ・欠席の場合は、9時までに園に連絡を入れてください。また、お迎えが急に18時を超えるような場合には連絡をしてください。電話番号は **097-554-8500** です。よろしくお願いいたします。
- ・12日には、歯科検診があります。この日(12日)はなるべく欠席のないようにお願いします。
- ・インフルエンザ等が流行しています。気温の変化などに気をつけ、体調管理をしてください。また、休日明けは、子ども達が疲れている様子が見受けられます。子ども達に無理のない行動をお願いします。

10月子どもたちの様



・月初めは暑い日が多く、先に園庭に出て、その後お集りをするなどしてしました。それがいつの間にか涼しく過ごせるようになってきました。公園にでかけたり、園庭を駆け回ったり、行動範囲も広まり、子ども達の表情もしっかりした顔になっています。2歳児さんが小さい子どものお世話をしたり微笑ましい姿も見られました。運動会ごっこに向けて「よーいドン」と練習もしています。



子どもが望む大人の姿 ～17個の子どもの願い～

子育てに大切なことを知らせてくれています。是非お読みください。

前回は、「子どもが見る大人の世界」についていろいろ考えてきましたが、今回はそれを一歩進めてその「子どもたちが望む大人の世界」について考えてみたいと思います。



① 子どもをそっとしておいてあげる

子どもたちは、大人に対していろいろなことを願っているように見えますが、究極はあれこれ指示されたり命令されたりするのではなく、自分を信じて「そっとしておいてくれる」ことを望んでいます。そういえば中国の「老子」の教えの究極も「無為自然」といって何もしないことが大切と言います。子どもたちはみんな自分で育っていく力を自分の中に持っているということなのです。しかし、このそっと見守るといことが子育てでは一番難しいことなのです。

② 子どものちいさな仕草にも反応してあげる

子どものしていることには、どんな小さな仕草にも、子どもにとってはそれなりの意味があるといえます。その中には、周りの大人に気づいて欲しいと思うものもたくさんあります。子どもの小さな変化、小さな仕草に気づいて声を掛けてあげると子どもは自分が認められていることを実感し、自分のことが好きになり、自尊感情が高まって自信のある子どもに育っていきます。



③ 子どもをじっと見つめてあげる

子どもは自分のことを周りの人にいっぱい見てもらいたいと思っています。これはしていることだけではなく、自分自身を見て貰いたいと思っているといった方がいいかも知れません。きれいな服を着ても、新しい靴を履いても、私たちが気づかなければ必ずそれを私たちに見せに来ます。何かができるようになると私たちに「見て見て」「見て見て」といいます。私たちはその事実をしっかりと確認して「きれいなスカートだね」「新しい靴、ピカピカ光っているね」「三輪車上手に乗れるようになったね」「早く走れるようになったね」などと一つ一つ確認していくと、子どもはこの上ないような笑顔で喜んでくれます。「見つめ」ということは「認める」ことに繋がります。しっかりと見つめられると、子どもは自尊感情を高めていけるのです。



④ 静かに待ってあげる

子どもたちに「お母さんに言われる言葉で一番嫌な言葉は何ですか」と聞いたことがあるのですが、その時、ほとんどの子どもが「早く、早く」という言葉が嫌だと言いました。そのことを子どもたちに詳しく聞いてみると、まず朝寝しているときに「早く起きなさい」といわれるといいます。起きると今度は「早く顔を洗いなさい」とわれます。顔を洗い終わるとすぐさま「早く御飯を食べなさい」といわれます。御飯を食べ終わると待ち構えていて「早く歯を磨きなさい」とたたみ込まれます。歯を磨き終わると、今度は「早く着替えをきなさい」続きます。

「早く、早くという言葉が一番嫌だ」という子どもの気持ちがとてもよく分かりますような気がします。子どもの成長についてはよく「慌てない、焦らない、ゆっくり落ち着いて待つて上げる」ことが大切だと言われますが、このおかあさんとの会話を見ると子どもたちの「ぼくをわたしを信じてゆっくり待つて欲しい」という言葉が私たちの胸に突き刺さってくるようです。



⑤ 子どもの話をよく聞いてあげる大人

子どもたちはみんなその胸の中には、周りの大人に言いたい自分の思いを沢山もっています。子どもたちはそれを大好きな周りの大人に聞いてもらいたいのです。「あんな、あんな」「きいて、きいて」と周りの大人に訴えてくるのは、そのような思いが胸に溢れているからなのです。子どもたちは、この自分の話したいことを聞いてくれるおとなが大好きになるのです。

⑥子どもの良さを見つけてあげる



子どもたちは基本的に周りの大人に褒められて育っていきます。お母さんの優しい笑顔で褒められると子どもたちの脳の中にはドーパミンがでてとても良い気持ちになり、やる気が出てきます。この時脳は、赤く熱くなって成長するといわれています。逆に「ダメ」といって否定されると脳は冷えて青くなり成長を止めてしまいます。

したがって私たちは、どんな小さなことでも子どもたちの良いところをたくさん見つめて、それを褒めてあげ子どもの意欲を引き出していくことが大切なのです。逆にネガティブ面ばかりを見つけて叱ることは止めなければなりません。この時、褒めるということと煽てるということはしっかりと区別して、必ず子どもの事実に基づいて子どもの良い所を褒めることが大切です。

今回は紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に

- ⑦共感する
- ⑧子どものしていることに驚きを持つ
- ⑨ボディティブな言葉かけをする
- ⑩よく褒めて励ます
- ⑪一人一人の違いに応じた対応をする
- ⑫約束を守る
- ⑬あるがままを受け入れる
- ⑭明るくてほほ笑みの多い保育者
- ⑮ユーモアに富んだ保育者
- ⑯子どもの名前を呼んであげる
- ⑰人として美しく



などについて紹介して行きたいと思います。



毎朝の体操



園庭ですべりだい



砂場遊び



子育ての時は「早く」という言葉が必ず出てしまいます。今振り返ると何でだろうと思います。よくも悪くも口癖のようなものです。でも子どもにとったら不愉快ですね。待つとは大事なことです。子育ての時は自分の仕事、子育て、家庭のことで心も体もくたくたで「早く」の連発です。ホッとできる時間、まっいいかの気持ちで子育てができるといいですね。何かあれば保育士がいます。大切な子どもを健やかに育てていきましょう